

恒例 ベイタウン新年もちつき大会

今年も新年恒例のもちつき大会が1月14日、ベイタウン・コア中庭で行われました。ノロウィルスとインフルエンザの流行で各地でもちつきが延期や中止になるなかの開催でしたが、蓋をあけてみると例年通りたくさん子ども達(と大人達)が参加しました。この行事は青少年育成委員会が主催し、ほぼ15年以上もつづくイベントで、名前も今年から「こどももちつき会」となりました。毎年のことなのでマンネリ化を心配する声もありますが、学校の先生方が休日出勤でお手伝いをしたり、保護者会の呼びかけで「お父さんボランティア」が始まったりと進化しています。



もちつき大会で拾った話

親子孫 三代で楽しんだもちつき大会

数年前からベイトアウンの街開きの頃に中学生だった子ども達が、結婚してベイトアウンに住んでいるという話を以前紹介しましたが、今年のもちつき大会ではそのうちの2組がお孫さんを連れて来ていました。写真はそのうちの1組、西村さん（育成委員会会長）のご家族。西村さんの話では、打瀬中時代に同級生だった子ども達の子ども達（つまり孫世代）でも、同じベイトアウンの保育園で同級生という家族もいるそうです。「ベイトアウンがやっと故郷と言えるようになってきた」とは長くもちつき大会を欠かさず行ってきた育成委員会会長らしい言葉です。「そのうちベイトアウンで結婚相談所をつくって子ども達にずっと住んでもらってはどうか」とはベイトアウンニュース記者の言葉です。

どこのニュータウンにもある高齢化の問題を解決するにはいつもまでも子ども達が帰ってきて住みたくするような故郷を作ることでしょうね。



美浜打瀬小4年生の「もちつき大会ボランティア」

今年も美浜打瀬小4年生が総合的な学習の一環としてもちつき大会のボランティアをやっていました。人集めのためのイベントをやったり、もちを食べる席を用意したり、会場内の地図を配ったりと子ども達がどんなことをしたらもちつき大会を盛り上げて、自分達が貢献できるかを話し合っていました。写真は4つある臼の前にできる行列を整理するため最後尾に並んで案内をする役。寒い中でも張り切ってやっていました。「人の役に立って楽しい」



もちつき名人

ベイトアウンでもちつき名人といえばこの人。10番街在住の小畑さんです。子どもの頃は毎年家で餅をついていたという小畑さんは80歳を超えていますが、もちつきの腕は誰にも負けません。ある子はその姿を見て、「音がちがう」と言っていました。力任せではなく、ペッタン、ペッタンと太鼓を叩くように同じリズムで同じ音が続きます。

昔は毎年それぞれの家でもちをついていました。子ども達は小さい頃から強制的にもちつきをさせられていたので身体が覚えているんですね。小畑さんは小学校のもちつきでもボランティアでもちをついています。



お父さんボランティア

毎年たくさん子どもたちが集まるもちつき大会ですが、その運営は大変です。その最大の原因は「男手」が少ないこと。例えばもちをつくということひとつをとっても、力のあるもちの「つき手」がいらないとおいしいおもちはできません。ところが主催する青少年育成委員会の担い手は大半がお母さん達。ベイトアウンのもちつき大会では4つの臼で9回、合計で36臼のもちをつきます。子ども達によくつかれた柔らかいおいしいおもちを食べてもらうためにはお父さんたちの力がどうしても必要です。

そこで考えられたのがお父さんたちの積極参加を促すための「お父さんボランティア」作戦。昨年のもちつき大会から各小学校の保護者会からお父さん達に協力に呼びかけたそうです。その願いに答えて、昨年は5人。そして今年は8人のお父さんたちがボランティアとして参加してくれました。

8人の中には外国から来られて日本伝統のもちつきを体験しているお父さんもいました。アメリカから来られたジョンソン・カークさんは美浜打瀬小のお父さんボランティア。昨年も参加されたそうです。ジョンソンさんは常々セイフティーウォッチャーとしても活動されているそうです。



「ペイタウンでよみがえった臼と杵」

昨年同様もちつき大会では、臼が4つ使われました。これらは青少年育成委員会のもので、いくつかは住民の方の実家から使われなくなったということで寄贈されたものです。その中で、今回赤いテープが巻かれて使われた臼と杵はセントラルパークウェスト在住の黒澤浩一さんから昨年寄贈され、今年この大会初お目見えのものでした。当日黒澤さん一家がその様子を見に来られるというので、臼にまつわるお話や気持ちを伺いました。【小原】

「臼と杵は少なくとも50年以上は使われずに実家にありました。自分も弟ももうもちつきをするような環境ではありません。数年前のペイタウンニュースの記事でももちつき大会のために臼が必要だということを知り、昨年思い切って実家から千葉まで車で運んできました。かなりの重さですから、車に下敷きとして厚い合板を置き、持ち上げて載せるのも近所の友人に手伝ってもらいました」

黒澤さんの実家は福島県です。臼がいつ頃から家にあったかは定かではありませんが、子どものころ節句ごとや年越しにもちつきを家でしていたことは、良い思い出となっていて残っているようです。特に近所の人と一緒に賑やかに行ったのが年越しの餅つきで、当時の人たちには一大イベントだっ



クルマに積み込まれペイタウンに出発する臼と杵。

たことがよくわかります。のしもちにした後冷めてほどよい堅さになったとき切るのは自分の仕事だった、と懐かしそうに黒澤さんは思い出していました。

実家に臼と杵があったと聞いて、記者は最初黒澤さんの実家は農家だと思っていました。ところが違いました。そこで持ち主であったお父様の話を伺うと、その臼と杵には並々ならぬ思いが込められていたようです。

「父は早くに実の親から離れて養子として育ち、若くして独立して中国に単身渡って職を得ました。結婚して幸せな家庭を築いたのです。ところが第二次世界大戦の終戦を迎えます。ソ連（現在のロシア）軍の侵攻から命からがら逃れ、日本に引き揚げてきましたが、その過程で私のいとこにあ



大会当日、慣れた手つきで杵を振る黒澤さん

たる2人の幼い子どもが亡くなりました。それらの経験から父は家庭をとても大切に、子育ても一生懸命でした。今も家に残る様々な道具類を見ると思い出されます」

臼と杵は、家族を大切に思って暮らしてきた生活の象徴でした。昔は特に祝い事にもちは欠かせませんでした。それを自分のうちで作ることは幸せを感じる瞬間だったのではないのでしょうか。

「この臼や杵をここで使い続けてもらえれば、息子や孫にも伝えられます。そしてペイタウンにつながりを感じてもらえれば、と思うのです」

蒸したてで湯気が上がるもち米が投入された臼の前に、浩一さん洋子さん夫妻、都内から駆けつけた息子の修一さん啓子さん夫妻と孫で4歳の一慶君がそろいました。親子三代そろい踏みです。冷えて雪が時折ちらつく中、黒澤さんが一慶君の手を取って白いもちに杵を下ろしました。「よいしょ」という掛け声が響き渡ります。黒澤さんの臼と杵は新しく活躍する場を得て、再び生きた道具となったようです。

ちなみに臼はケヤキの大木の丸太をくりぬいたもので、側面にはもとの木のでこぼこしたところも残って味わいがあります。もちつき名人の小畑さんによると、口が大きくて底が浅いのでとてもつきやすい良い臼だそうです。長年使われていなかったもので、ちゃんと使えるか、前日水を張って漏れがないことを試験し、無事合格して当日を迎えました。ケヤキは強く粘りがあって割れにくい材質で臼には最適な材料だそうですが、長い年月を超えても使える道具であることはすごいと思います。これからも大切にありがたく使わせていただきましょう。

シリーズ ニュース創刊の頃の話 (6) 下川氏のこだわり

ペイタウン・コアの音楽ホールは公民館講堂という位置づけですが、過去にはウィーンフィルメンバーや仲道郁代など内外の一流演奏家も演奏したほど質の高い音楽ホールです。ペイタウンの音楽サークルはこのホールを練習場として使用し、定期演奏会を開くなど恵まれた環境で活動しています。しかしペイタウンだけがなぜこんなに恵まれているのか。そもそも公民館なのになぜこんな立派な音楽ホールがあるのか。このことについては住民の間でもあまり知られていないようです。今回の「ペイタウンニュースが創刊された頃」では、このペイタウン・コア建設とその実現に尽力した下川氏についての話です。

前回（2016年11月号）ではコミュニティ・コア（現ペイタウン・コア）建設を進める住民の委員会ができたことを紹介しましたが、その委員会の会長に就いたのが5番街在住の下川さんでした。当時下川さんは毎日新聞勤務。少し体調を崩し第1線から退いていましたが、記者時代に培った豊富な人脈や経験からこの委員会をペイタウンで最も活動的な会に押し上げました。

「コミュニティ・コアにペイタウン住民は何を求めているか」。彼はこの一点について最も時間を割いて話し合い、意見を集めました。ほぼ2週間に1度開かれた公開の「コミュニティ・コア研究会」（通称コア研）のために全番街にチラシを貼り、集まった人からコアにどんな機能を望むかを尋ね、意見を集約してはまた次に議論する。そんなことを繰り返しました。

集まった人達からの要望は様々でした。コア不要論から始まり演劇が主体の劇場をとか、宿泊施設をとという声までありました。会議ではこれらのニーズをひとつひとつ取りあげ、小さな検討委員会を作って検討を重ねましたが、当時は住民同士が集まって気軽に話し合えるような機会がなかったため、コア研での検討会はさながら同好の士を見つける場のようなものでした。話し合われたテーマのうち、コアという施設がなくてもすぐに実現できるものは仲間各番街の集客室を会場にサークルを発足させていきました。この定期的な集客は入居して間もなく、同じ趣味の友人を見つけることも難しかったペイタウンで多くのサーク

ルを育てる場になりました。

当時僕はペイタウンニュース記者としてこの研究会を取材していました。下川さんとはほぼ同じ世代でしたが、多くの住民が集まるなか、そのニーズがいつまでたっても纏まらないことに不安を感じていました。下川さんの手法は多く住民を集め、議論に花を咲かせるけれど成果がなかなか出ないと考え、なぜこうも慎重に住民合意の手続きにこだわるのかと不思議でした。

しかし後になって考えると、この手続きは彼にとっては必要不可欠なものだったようです。こんな作業の継続が現在のペイタウンの多少はマシな街の合意形成のしくみができたように思います。

このときに話し合われ、後に「小さくてもキラリと光る、アコースティックな響をもつ音楽ホール」がコアの基本理念としてまとめられたことが、その後のコア建設で待ち受ける行政との攻防に大きな役割を果たします。

さて活発に進んでいたコア建設計画を巡る議論ですが、このあとペイタウンニュース1998年5月号での金記者の記事「コア建設、無期限凍結か」で一気に苦境に立たされます。【松村】（次回につづく）

子ども記者が伝える

今僕の学校では…

海浜打瀬小学校 6年 村上遙菜

No.9



海浜打瀬小学校編

1月17日、海浜打瀬小に中国の重慶市から巴蜀小学校の5年生が遊びに来てくれました。

昨年に引き続き遊びに来てくれたことは、とても嬉しいです。全校での歓迎集会では、海浜打瀬小伝統の「チャンチャンコール」や「よさこいソーラン」、世界で話題になった「PPAP」などを全校児童で行うなどして、とても楽しく笑顔があふれる会になりました。巴蜀小の方々からは詩の朗読と、中国で人気の曲に乗せてダンスを披露してくれました。

その後、クラスごとで活動しました。昨

年は、算数パズルをやって盛り上がった思い出があります。今年は中国について質問をする時間をとったので、中国のことを学ぶ機会になりました。来日期間中の予定を聞くと、海浜打瀬小に来る前は浅草に寄っていたそうです。その後は、ディズニーランドにも行くと言っていました。日本での滞在期間は短いけれど、十分楽しんで、満喫していったほしいと思います。交流した時間は短かったけれど、とても楽しい時間になりました。ぜひ来年もまた遊びに来てほしいです。

最後に、私は一つわかったことがあります

す。それは、話が通じなくても身振り手振りや表情で心は通じ合うことができるということです。私は中国語を話せないしわかりません。しかし、話さなくても話せたような気がして、とても嬉しく思いました。これならば、どこの国でも交流できそうですねと思いました。

これをきっかけに、他の国の方々とも、もっと関わっていきたいです。(編集部注：記事はできるだけ子ども達が書いた文章をそのまま掲載しています)。

子ども達が手作りで「熱烈歓迎」 巴蜀小学校歓迎会

昨年につづいて、今年も海浜打瀬小学校に中国の小学生達が交流のためやってきました。先生から取材の許可をもらって同校アリーナで1月17日に行われた全校参加の歓迎会に行ってきました。

来訪したのは中国重慶市にある巴蜀（はしょく）小学校からの一行、約30人。巴蜀小は何と児童数が5,300人だそうです。ちょっと日本とはスケールがちがいます。挨拶や歓迎の出し物（詩の朗読など）を見ると子ども達の態度も立派で、日本の小学生達が見劣りがする程でした。もっとも彼らは言わば「よそ行き」の顔で来ているので、ホームグラウンドでくつろぐこちらの小学生とは緊張感が違うようですが。

歓迎会は10:40頃から始まりお昼頃までつづきましたが、見ていると会の進行は海浜打瀬小の5、6年生が委員会をつくってやっていました。進行のスムーズさから見るときっと何度も練習したのでしょうね。

歓迎会の中心は両小学校による「出し物」の紹介でした。巴蜀小からは歌と踊り、詩の朗読など、海浜打瀬小からは3、4年生による「ソーラン節」と「PPAP」、そして同校伝統の「ちゃんちゃんコール」。出し物を重ねるうちに子ども達の顔がだんだんほころんで来るのが分かりました。こういう民間での交流事業って大事ですね。重慶と言えば先の大戦で日本軍が大爆撃を行ったことで反日感情の強い街です。でも巴蜀小学校の子ども達とのふれあいを見ているとそんなことは微塵も感じませんでした。【松村】

エコパークの冬景色

1月下旬に久しぶりにエコパークを見てきました。と言っても今は何もありません。ネギが少し植えられているくらいで、寒々しいほどですが、かえってこの風景が季節を感じさせてくれました。刈り取りが終わって整然とならんだ稲の切り株やきれいに積まれたワラがある田んぼにいます。こんな風景があるから春のナノハナがよけい生きるのでしょね。いつも花が咲いている花壇もきれいです。春を待つ花のない風景もいいものです。



海浜打瀬小児童の声援を受けてダンスを披露する巴蜀小学校の子ども達。

公民館の畳

お気づきの方も多いと思いますが、コア和室の畳が昨年10月に新しい畳と交換されています。昔から「〇〇と畳は新しい方が…」と言いますが、新しい畳は藁草（いぐさ）の香りがよく、とても落ち着きます。前の畳はコアができてから一度も張り替えられていなかったのも、やっと千葉市が交換してくれたのかなと喜ぶ方もいると思いますが、実はこの畳の張り替えには少しばかり物語があります。今回はその紹介です。

コア和室の畳は数年前から老朽化が指摘され、特に茶会など和服で使用する時には着物にすり切れた畳が付着するなどの問題があり早急に張り替えてもらうよう要望が出ていました。ところがご存じのように千葉市は予算がなく、畳以外にも補修や交換の必要がある設備がそのままになっています。これは打瀬公民館だけでなく他の公民館でも同じで、打瀬公民館は他の公民館よりもまだ優遇されている程です。

コアは他の施設に比べて高機能で、維持していくためにはお金がかかる。行政が普通の公民館と同じ予算しか出せないならその差は住民が話し合って自分達で努力する道もあるのではないかと。毎年開催されるコア・フェスタの準備委員会ではそんな意見が多く出されていました。特に昨年の準備委員会では、このままでは和室で茶会を行うことは難しいという声があり、住民負担による畳の張り替えが話し合われました。

コアの設備を修理や交換するとき問題になるのはお金だけではありません。お金だけなら利用するサークルが集まって費用を出し合うなどすればいいのですが、問題になるのはむしろ公平性です。例えば利用するサークルだけで費用を出し合って設備を直した場合、他のサークルがそれまでと同じように気兼ねなく使えるか。また他の故障箇所を直さず自分達で使う部分だけを直すことは公共施設の維持管理上問題はないのか。そもそも本来は行政が負担すべき費用を住民が負担することは行政サービスの低下につながるのではないかと。

しかしそうは言っても直さなければコアでお茶会はできなくなります。それはホールの舞台照明用の電球も、講習室の壊れて使えなくなった机も同じで、誰かが直さなければ施設自体が使えなくなります。

この問題に取り組んだのは昨年発足した公民館の「サークル連絡協議会」です。協議会の主な目的は毎年秋に行われるコア・フェスタを実行することですが、幸いコアで活動する多くのサークルが意見交換できる唯一の機関です。コア・フェスタで和室が使えるように、協議会に参加する23サークルで寄付を募り、同協議会から千葉市に現物で寄付するという仕組みでこの問題を解決しました。と言っても協議会に参加するすべてのサークルが寄付を出した訳でなく、実際には多額の寄付をしたサークルや全く寄付

をしなかった団体もあります。しかしサークル連絡協議会として寄付をすることになれば、どのサークルや住民団体も公共施設として気兼ねなく使用することができます。

ベイタウン・コアは高機能なだけに維持管理にも費用がかかります。今後設備が劣化し使えなくなったとき誰が費用を負担してどう維持管理していくのか。問題を話し合うためには話し合う機会が必要です。隔月で定期的に意見交換を行うサークル連絡協議会は、現在のところ住民間でコアの問題を話し合う唯一の機関として期待されています。【松村】

避けて通れない問題 終末期医療についての講演会

1月17日午後2時30分よりコアで「最期まで自分らしく生きる」というテーマで講演会がありました。主催は千葉市社会福祉協議会打瀬地区部会と打瀬公民館、千葉大学医学部附属病院の協力によるものです。講師は千葉大学医学部附属病院前副院長の高林克己先生でした。参加者数は100名定員を超えて105名でした。

超高齢社会の実際問題を知ったうえで、自分はどういう最期まで自分らしく生きて終末を迎えるか、考えさせられる内容となっていました。

希望者に配布されたDVDは、30分弱の長さでドラマと解説で構成され、今回の講演会の内容がコンパクトにまとめられています。今回参加出来なかった人は、知り合いで参加した人から借りてみるといいでしょう。【小原】



2月のコア・イベント

わくわくおはなし会 2月の常設おはなし会

日時：2月18日 第3土曜日

時間：午前10:30から

場所：ベイタウン・コア講習室

今月もわくわくするお話を用意してお待ちしています。

年齢制限はありません。絵本の好きな大人も子どもも来てね。

予約は不要です。読み手も募集中、見学大歓迎

ブログ更新中・見てね** <http://blog.livedoor.jp/chibawaku/>

お問合せ先：chibawaku2@freeml.com

2月25日（土）寺子屋工作ランド

「紙コマ」をつくろう

日時：2月25日 第4土曜日 9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア工芸室

工作用紙5枚をはりあわせたコマです。きれいな模様をつけます。

持ってくるもの：はさみ、木工ボンド、クレヨン

参加費：50円（保険料）

第157回ファツィオリの会（コア文化振興基金後援事業）

日時：2月26日（日）午前9:00～11:30

場所：ベイタウン・コア音楽ホール

フルコンサートピアノ「ファツィオリ」の演奏や他の楽器の演奏、声楽や合唱などに使って頂くことが出来ます。非公開でのご利用を希望のときは、ご相談下さい。定員になり次第締め切らせていただきます。聴きに来て頂くのは、自由です。

最新の情報は <http://www.baytown.ne.jp/core/> をご覧ください。

締切：2月19日（日）申込先：suhara-u@kmj.biglobe.ne.jp（須原）

図書館からのお知らせ

① わらべうたと絵本の会

日時：2月8日（水） 午前10:00～10:30 1・2歳児と保護者

午前10:40～11:10 0歳児と保護者

場所：ベイタウン・コア 講習室

内容：体を動かしながら、わらべうたで遊びます。

当日、直接会場に来てください。

② おはなし会（毎月第4木曜日）

日時：2月23日（木） 午後3:30～4:00 3歳児以上と保護者

午後4:00～4:30 5歳児以上と保護者、

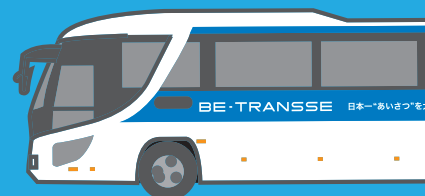
小学生。お子さんだけでも参加できます。

場所：ベイタウン・コア 講習室

内容：3歳～：絵本の読み聞かせを行います。5歳～小学生：絵本の読み聞かせ等を行います。当日、直接会場に来てください。

詳細・問い合わせ：打瀬分館 TEL：272-4646

BAYTOWN BUS



おかげさまでここまで走り続けてきました



路線 開 通



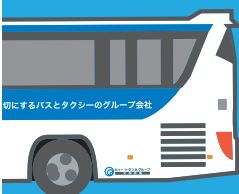
20周年

374-060HN52HV

BAYTOWN BUS

千葉200
か 18-06

ありがとうございます。そしてこれからも...



切にするバスとタクシーのグループ会社



日本一“あいさつ”を大切にするバスとタクシーのグループ会社
ビー・トランセ グループ

平 和 交 通